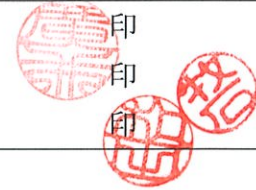


論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

①・乙	氏名	日下 あかり
学位論文名	High-fidelity Multidisciplinary Competition-based Simulation Tasks in Prehospital Emergency Medical Service	
学位論文審査委員	主査	廣井 直樹
	副査	牧石 徹也
	副査	和田 孝一郎



論文審査の結果の要旨

救急医療は医師、看護師、救急救命士、救助隊員など多職種による初動対応に大きく依存している。その教育訓練として世界中で「メディカルラリー (MR)」が開催され、本邦でも、大阪や福島、島根等でシナリオに沿った複数ブースを回る競技形式で実施されている。しかし、国際的にも MR シナリオの教育効果を多面的に評価した例は乏しい。

本研究は 2019 年の島根 MR で行われた 7 課題 (出産、小児、内科、震災、外傷、心肺蘇生、テロ) のうち、交通外傷 (IT)、学童期疾患 (PE)、ショッピングモール爆弾テロ (MC) の 3 課題を対象に、多目的効用値算出法 (MAUT) を応用して、評価項目として設定した①チームワーク向上、②技術向上、③救命率向上、④社会的信頼向上の 4 項目の教育効果を検証した。評価者はステークホルダーとして医師、看護師、救急救命士、救助隊員、MR に関与した事務員の 5 群を設定し、各々が自身の立場から 4 つの評価項目について目標の相対重要度を評価した。救急医エキスパート 5 名が 3 シナリオの実績率を算出した。各ブースの相対重要度と実績率を用いて効用値を算出した。

ステークホルダーによる相対重要度は「チームワーク」が最も高く、「社会的信頼向上」「救命率向上」「技術向上」の順であった。パネリストによる実績率では、MC での「社会的信頼向上」が 4 評価項目中最高であった。各課題の総合効用値は PE 80.2、IT 79.1、MC 88.5 であり、災害・テロ対応訓練の重要性が示された。課題・評価項目別の効用値は、MC の「社会的信頼向上」が 24.6 と最も高く、他の効用値 (16.3~23.0) と比較して高値であり、災害・テロ対応の訓練課題の実施は、地域社会との信頼構築にも資する可能性が高いと考えられた。

競技型高精度シミュレーションは救急医療従事者の教育に有効であり、チームワークや技術習熟、救命率向上に寄与するだけでなく、地域社会の信頼構築にも資する可能性が高いと考えられた。特に大規模災害・テロ対応訓練は防災計画や救急体制の改善に直結する重要な教育手法であると思われる。研究の限界として、評価指標が専門家の主観に依存している点、対象が日本国内の事例に限定されている点が挙げられる。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

候補者は救急医療の実践者として十分な経験を有しており、経験に基づいた臨床的課題に対して困難を感じつつも真摯に研究を行っている。本研究に多目的効用値算出法を用いた理由についても適切、かつ熱意をもって回答していた。また、今回導き出された「社会的信頼向上」について、多面的な検討方略についてもアイデアを有しており、今後も研究を継続する強い意思を持っていると感じられ、学位授与に十分値すると考えられた。

(主査：廣井直樹)

本研究は、救急医療教育におけるメディカルラリーの教育効果を、多目的効用値算出法を用いて多職種・多視点から検証した点に独創性と学術的意義が認められる。結果は災害・テロ対応訓練の重要性を示し、地域医療や社会的信頼構築への示唆も大きい。研究手法の理解も十分で将来の発展性が期待でき、関連知識も豊富であり、学位授与に値すると考える。

(副査：牧石徹也)

救急医療分野において多職種連携によるメディカルラリーが教育訓練として行われているが、各シナリオについて教育効果を評価した報告は非常に少ない。申請者は多目的効用値算出法というユニークな手法を用いて多職種・多視点から各シナリオの教育効果を評価できることを明らかにした。本知見は今後の救急医療分野において非常に有用であり、かつ関連知識も豊富であることから博士の学位授与に値すると判断した。(副査：和田孝一郎)

(備考) 要旨は、それぞれ 400 字程度とする。